臨床コミュニケーション 2015

Human Care in Practice

解説：池田光穂（tiocaima7n[at]mac.com）

ラテンアメリカのスラムと思しき家屋の中で、男性（夫）と女性（妻）が、発話をしている（下図）。

［夫］**おい嫁はん、わかるか？　民間投資 20 億、企業は 130 億、40 億の準備金、30 億の輸出で、俺達の経験したことがないほどの好況だぜ**

［妻］**何か食べるもののために６ペソでいいから、ちょうだい！**

傾斜した土地の斜面、スクォッター（掘立小屋）、地面でテレビをみる子供、居間と台所の共存、これらの風景は、この男女の会話を知る手がかりになる。会話の内容はフォント（文字の形態）を変えてあるように、またこの２人が考えている内容や、思考の背景、そして彼らのジェンダー意識なども表現しているように思える……**受講者の皆さんには奇矯なことと思えるかもしれないが、これこそが私たち（西川勝さん、宮本友介さん、そして池田）が考える臨床コミュニケーションにほかならない！と主張しているのです。**もちろん、そんなことは、このキックオフのレクチャーを聴いただけでは、わかりません。臨床コミュニケーションの実践哲学により添って、この授業に過不足なく「参加する」ことを通してでないと、実修することはできません。

***

臨床コミュニケーションとは.....

・ある具体的な解決を目的としておこなわれる対人コミュニケーションのこと。

・もっとも典型的な例は、医療現場における医療者と患者の間でみられる相互作用である。ここで言う医療者とは、かならずしも医師だけをさすわけではない。また、患者は、一般には病者とよばれ、広義には家族も含まれる。

・しかし、臨床の現場におけるコミュニケーションに類する行為は、学校教育の場、心理カウンセリングの現場、法律相談、友人間の悩み事の解決など、さまざまな局面でみられる。臨床コミュニケーションの教育が、医療者、カウンセラー、教育者などの専門家以外にも必要なことは、患者学のように、相談する者と相談される者の間では、さまざまな技法の習得が期待されているからである。

・また、相談される者である専門家もまた（その例として医師がガンになり入院することを想定したまえ）相談

Copyright Mitzub'ixi, 2015

する者になるからである。

・医療・福祉・コンサルテーションなどの業務は、具体的な専門知識と技量を有する人間と、問題を抱えその解決を求める人間のあいだのコミュニケーションを基調とする。治療・ケア・対応策を授けるといった具体的業務においては確実さと信頼性を確保するためには現場における対人的コミュニケーションは不可欠であろう。またこの種のコミュニケーションは、つねにその成果を現場にフィードバックするものであり、現場から得られる知恵の習得・継承・発展は欠かせない。

・人間が社会的生活をおこなうかぎり続いてゆく、具体的な結果を引き出すためにおこなう対人コミュニケーションのことを、私たちは「臨床コミュニケーション」(human care in practice)と呼ぼう。そして、その教育において育てられる人たちを「臨床コミュニケーター」と呼ぶことができる。

・臨床コミュニケーションの場は、つねに具体的な状況――〈社会的文脈〉と呼ぶ――のなかで起こる。より適切な臨床コミュニケーションを生み出すためには、個々のコミュニケーションが、どのような社会的文脈と結びつくのかを検討し、具体的な場――それが私たちの言う〈臨床〉にほかならない――で検討することが重要になる。

・最後に偉大な社会哲学者の引用から：「人間の行為は、絶海の孤島のロビンソンを除けば、本質的につねに必ず相互＝行為である。なぜなら、人間「である」ことは、つねに社会のなかで生きることに等しいからである」（今村仁司「社会空間の概念」p.46、『社会空間の人類学』西井涼子・田辺繁治編、Pp.32-47、世界思想社、2006年）

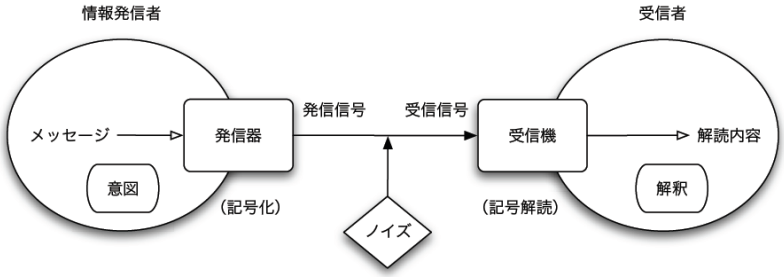
◎ネットリンク集（http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/　のディレクトリーにあるもの）※用語をググってください。

コミュニケーション（communication）の語源は、ラテン語のコミュニス(communis)すなわち共通したもの、あるいは共有物（common コモン）と言われている。これは、コミュニケーションの本質を理解する上で重要なことである。マルクス主義は、生産手段の〈共有〉を目標とした社会運動論であり、それが結果的に私的所有の廃絶を生じると想定されていた。ここでも人類の共通の理想としての共通・共感・共同という一体性が強調されていた。コミュニケーションの日本語への翻訳は多様で辞書をみても、伝達、報道、文通、伝染（cf. communicable disease）、連絡、情報、通信、交通（コミューター）などがあり、何かが伝えられていることを指し示している。しかし、これは伝えられることを通して、「何かが〈共有〉される」というある事態の結果、ないしはその進行のプロセスのことを意味していると理解したほうがよい。コミュニケーションについては英語も日本語も、そのような意味の束が主たるものである。したがって**コミュニケーションの理想的な翻訳は「伝達共有過程」ないしは「伝達の共有」というのが、もっとも語義に叶ったものになる**。ここから展開すると、コミュニケーションはメッセージの相互のやりとり、なしはそのようなやりとりの結果〈ある事象が共有されている状態〉ということになる。ウィナー（1961）はメッセージを次のようにそっけなく定義している。つまりメッセージとは「時間内に分布した測定可能な事象の離散的あるいは連続的な系列のこと」であり「電気的・機械的な方法、あるいは神経系などによって伝送されるもの一切を含んでいる」と［ウィーナー1962:11］。

文献

Wiener, Norbert, Cybernetics, or, Control and communication in the animal and the machi ne. M.I.T. Press, 1961（ウィーナー『サイバネティックス：動物と機械における制御と通信』池原止戈夫ほか訳、岩波書店、1962 年）

Copyright Mitzub'ixi, 2015



シャノンとウィーバー（1949）によるコミュニケーションの図式モデル（池田原図）
Shannon, Claude E. and Warren Weaver, 1949. The mathematical theory of communication. Illinois: University of Illinois Press.

ヘルスコミュニケーション

同義語：保健コミュニケーション、健康コミュニケーション、health communication, Comunicación de salud

・ヘルスコミュニケーション（ヘルス・コミュニケーション, health communication）とは、健康と病気にかんする保健領域における（個人対個人、個人対集団、集団対集団などの様々なタイプの）対人コミュニケーションのことである。米国の疾病予防研究センター（CDC, the Center for Disease Control and Prevention）では、ヘルスコミュニケーションを「健康を増進する個人とコミュニティの決定に情報や影響を与えるコミュニケーションの諸戦略の研究と利用のこと」（the study and use of communication strategies to inform and influence individual and community decisions that enhance health）[2001]ととらえている。
・すなわち、ヘルスコミュニケーションとは、対象となる個人や集団の（定義がいかなるものであれ）「よい健康」（good health）というアウトカムを求めるコミュニケーションの実践と研究のことである。
・そのため、研究や実践をはじめる前・行っている最中・終わった後に、ヘルスコミュニケーションでは、その「よい健康」ならびにコミュニケーションとは何かということが常時検討されていなければならない。
・ヘルスコミュニケーション研究にはいくつかの認識論的次元がある。

A．ヘルスコミュニケーション概論

（1）対人コミュニケーション研究の動向の把握　［→参照：コミュニケーション・デザインとは何か？］［コミュニケーション］ヘルスコミュニケーションを含む、個人対個人、個人対集団、集団対集団などの様々なタイプの対人コミュニケーションに関する基礎理論や研究の新しい潮流の把握

（2）コミュニケーション過程に影響する変数

ヘルスコミュニケーションにおける、文化的、民族的、ジェンダー的、宗教的、地理的な諸要因の変数に関する基礎情報やその動態の把握　［→参照：ヘルス・プロモーションとヘルス・イデオロギー］

（3）健康と病気に関する基礎理論　［→参照：病いと疾病］

B．ヘルスコミュニケーション実践に関する社会的取り決め

（4）対人コミュニケーションに関する契約概念とその倫理

（5）コミュニティ活動に関する契約概念とその倫理

Copyright Mitzub'ixi, 2015

（6）コミュニティの動態性

（7）専門職による医療的コミュニケーション（あるいは臨床コミュニケーション）　［→参照：臨床コミュニケーション］

（8）ヘルスコミュニケーション・プロモーションにおける当事者の活動の位置づけ　［→参照：コミュニティにもとづく参加型研究（ＣＢＰＲ）］

Ｃ．ヘルスコミュニケーション技法

（9）ヘルスコミュニケーションの計画と立案（リサーチと実践のデザイン）

（10）健康状況の把握、対象者・対象集団の輪郭形成

（11）プログラムの目的とその諸戦略の確立

（12）個々の戦略を実現するための戦術の構築と、プログラム途上のフィードバックのための評価技法　［→参照：ＰＤＣＡ］

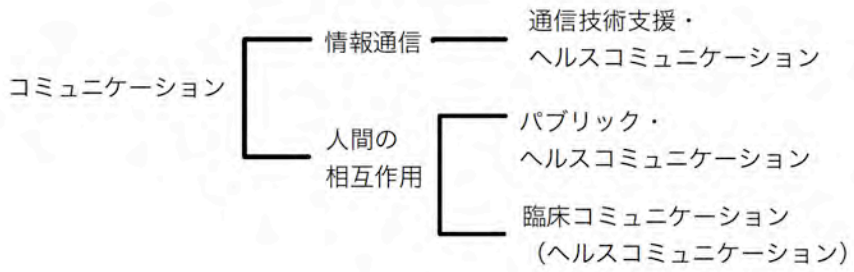
（13）履行状況把握、経過観察、プログラム総括評価

文献

Schiavo, Renata., 2007. Health Communication: From theory to practice. San Francisco, CA: Jossey-Bass.

ネットリンク集（http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/　のディレクトリーにあるもの）※用語をググってください。

- 臨床コミュニケーション教育：PBL から対話論理へ、対話論理から実践へ
- ヘルスコミュニケーション研究リソース
- よい臨床コミュニケーションとは」
- 臨床コミュニケーションデザイン・リンク集
- 仮想・医療人類学辞典



図．１　ヘルスコミュニケーション概念の経験的整理

【簡単なワークをしましょう！】

・なるべく見知らぬ人どうしで（ないしは異なるジェンダーの人と）２人のペアをつくる

・３つのペアをあわせて６人組みをつくる→チームの名前をつける→教員に報告する→教員の指示に従って教室を移動する

・司会と書記をきめる→「自己紹介の後、自分にとって臨床コミュニケーションというものはなにか？について考えを述べる」→グループで討論する。

・授業の終わり 15 分前（5 時 35 分）に、元の教室に戻ります→いくつかのグループで話された内容についてレビューをお聞きします（1 分程度でかまいません）→授業の最後の 5 分で出席票シートにコメントを書きます！

Copyright Mitzub'ixi, 2015